

コーヒーブレイク



ボランティアの楽しみ ～カンボジアの井戸掘り～

カンボジアを訪れて15回以上になった。カンボジアの法制度支援？ 弁護士養成？ と聞かれるが、そうではない。NPO法人「カンボジアの健康及び教育と地域を支援する会」の事務局長を仰せつかっている為である。主な活動は、井戸掘り・学校校舎建設・歯科診療である。春秋の年2回、カンボジア王国シェムリアップ州を訪れ、毎回3～4日間の活動をしている。

毎年秋には、鶴見大学歯学部名誉教授の河野篤理事長ら歯科医師チームが、貧しい家庭の為に、無償で歯科診療を行っている。現在までに5千人以上の歯を治療した。

小中学校校舎は、現在までに14校を建設している。我々の訪問に合わせて開かれる開校式典は老若男女数百人が集まる村の一大行事となる。

一方、井戸掘りは、今年4月までに通算1500本の井戸を掘ることができた。といっても、自分の腕力で井戸を掘る訳ではない。校舎建設もそうであるが、日本国内で井戸1本2万5千円で募った資金で、現地の建設業者に建設してもらっている。

我々、井戸視察チームの仕事は、井戸が注文通りに掘られているかを検証することにある。

1991年のパリ和平協定締結以降、カンボジアにも平和が訪れ、経済活動も上向いて来ているが、農家は未だに貧しい生活をしている。井戸を掘るお金もなく、大瓶に雨水を溜めて飲用水としている。

アンコール遺跡周辺の街は観光客で賑わっているが、街中から車で20分も走れば、のどかで変化のない農村地帯の景色が続く。車で悪路を1～2時間揺られたと



会員 山中 尚邦 (38期)

ころが、目的の村となる。カンボジアの農村には日本の田舎の原風景に似た風情が残っている。

気温35度を超える猛暑の中、村落の中のあぜ道をとぼとぼ歩いてゆくと、目的の井戸にたどり着く。井戸には、1本毎に寄付者名を書いた看板を立てている。我々は、井戸が透明な水を汲み出しているか、井戸を何世帯が利用しているか、寄付者の指定通りの看板となっているかを調べる。そして、井戸・その井戸を利用する村人たち・看板の写真を撮り、帰国後、寄付者に写真を添えて報告をする。募金の使い道が分かりやすいと評判が良い。

訪問する村ではどこでも農家の人々が笑顔で歓迎してくれる。ポルポト時代とカンボジア内戦の苦難をくぐり抜けた人々である。カンボジアの農民たちは、明るくて素朴である。民家で昼ご飯をご馳走になったこともある。

子どもたちはとにかく可愛い。我々外国人が物珍しく、近所から子どもたちがワイワイとたくさん集まってくる。我々は、子どもたちに日本から持参したボールペンやノートをプレゼントして回る。子どもたちは、拝むように両手を合わせ、感謝の気持ちを表してくれる。

活動終了後は、歩き疲れによるズシッとした疲労感、カンボジアの人々に分けてもらった元気、何とも表現できない心地よさをお土産に帰国の途に就いている。

カンボジアの人々にはより豊かな生活を送って欲しいと思いつつも、素朴で明るい気質はいつまでも変わって欲しくないと思っている。